

明確にすることである。特に学年（学年団）の果たす役割を再検討し、推進母体とすることが考えられる。その組織活動においては、学年（学年団）のスタッフが、役割を分担し、協力することに満足感をもてるようにすることである。

5 研究のめあて

「教育活動の効果的・効率的な実践のための教授組織」

ひとりひとりの子どもの能力を開発し、心身の調和的発達をはかるため、教師の特性を生かし、本質的な授業を展開するには、教授組織をどのように改善したらよいかということになるが、本県の実態により、次のような具体事項をあげることにする。

- (1) 弾力的な集団の取り扱いによる合併授業
- (2) 教育機器の導入と個別化・集団化の複数授業
- (3) 小規模校における授業の改造

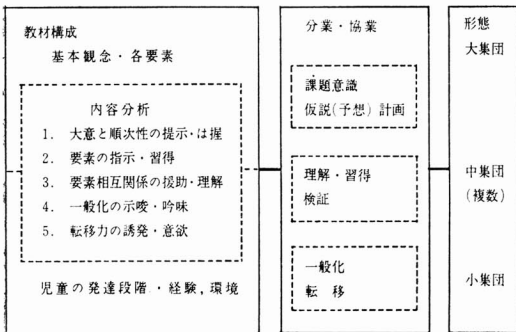
実験学校

福島市立吉井田小学校 校長 安田正吾  
安達町立下川崎小学校 校長 石川 博

6 活動の実際

単元指導計画の段階においては、制約された時間内で教材を構成し、分業・協業が有機的に行なわれるよう作成する必要がある。そのために基本構想の共通理解をはかり、基調案により共同作成するように配慮する。

(1) 基本構想



(2) 基調案

単元	段 階	内 容	分担	時間	形態
腕立て 閉脚と び	1. はじめの話し合い	(1) 集合隊形 学級ごと男女2列 (2) 学習のめあての指示	TL	5	大集団
	2. 準備運動	(1) かけ足によるからだの調整 (2) 手首、足首、脚の前後開き、体の前後運動	T1	5	小集団
	3. 閉脚の腕立てとび	(1) 教師の示範を見る学習 (2) 能力別小集団学習	T1 T2	25 75	
	4. おわりの話し合い	(1) 各自うまくなったと思う点 (2) まだ運動練習が足りないと思う点 (3) 次時の予告	TL	5	大集団
	5. 用具のあとしまつ	(1) 協力してのあとしまつ (2) からだの清潔	T2	5	15

例 6年体育 とび箱運動——腕立て閉脚とび (3時間)

- A 段 階——大体とべる
- B 段 階——どうかとべる
- C 段 階——全くとべない

(3) 授業検証

2年体育 研究・授業者 尾形節子, 岸 ミツ

① 研究のねらい

「低学年における個別化を考慮した集団の再編成」

この学年においては、各種運動を遊戯として取り扱い、活発な運動をとおして調整力を養うことをめざしている。活発な運動を展開するには、活動力に応じた集団を再編成し、教授方法（姿勢、回数、距離、速さ）に変化を与えることになるだろう。

研究のねらいを具体的にあげると、次のようになる。

ア、2学級を合併し、子どもの活動力により、3小集団（活発、普通、不活発）に再編成し、程度別内容での結果から、再編成の視点を確かめる。

イ、程度別内容の段階的な確かめにより、内容構成、協力・分担のあり方をとらえる。

② 題材 とび箱運動——「うで立てとびあがり」とびおり」

体操領域としての歩、走、跳の連続組み合わせ運動と、両足でふみ切り、正しい手の位置でのとびあがり、正しい着地でのとびおりができる。

③ 題材構成 ア、目標（略）  
イ、指導計画

区分	体 操	とび箱運動
内 容	第 1 次 いろいろな動物のとび方、歩き方などの模倣ができる。 20分	話しをきいたり、写真をみたりしての運動のやり方。 25分
	協力 分担 形態	T A——音楽担当 T B——個別矯正指導 大集団
以下 同 じ	第 2 次 高いところからのとびこし、とびおり、各種移動を調子よくできる。15分	両足でふみ切り、正しい手の位置でとびあがること。 30分
	T A——個別指導、危険個所の安全性の体操指導。 T B——体操指導（屈膝、背のび、腕力とび、整理運動） 小集団（4グループ）	T A——とび箱運動の指導、反復練習による程度別編成 T B——用具の点検、緑組の練習、ふみ切り板、台上のテープはり 程度（能力）別集団
第 3 次	いろいろな姿勢でのとびおり方、リズムカルな変形姿勢の歩き方ができる。 20分	両足で強くふみ切るとびあがり、台上から片足、両足でふみ切ったの正しいとびおり方ができる。 25分
	T A——安全な着地の指導 T B——山がた平均台の個別指導 小集団（4グループ）	T A——赤・黄組の個別指導、グループの再編成 T B——緑組の個別指導、用具の点検 程度別集団
第 4 次	かるく調子よくうさぎとびができる。 20分	助走、ふみ切り、うで立てとびあがり、とびおりが調子よくできる。 25分
	T A——個別指導 T B——うさぎとびの要領の説明（ジャンプ、手首のスナップ） 小集団	T A——要領の説明、反復練習による個別指導 T B——緑組の個別指導 程度別集団
第 5 次	いろいろなとび方を連続して調子よくできる。 10分	両うでをつく位置を前方にとり、姿勢をくずさないで、斜め前方にとびおりることができる。 35分
	T A——個別指導（用具の右側） T B——個別指導（用具の左側） 大集団	T A——要領の説明、赤・黄組の個別指導 T B——緑組の個別指導 程度別集団